

科目：在宅看護実践の基礎

1単位（30時間）

設定理由：地域で療養生活を送る人々と家族を理解し、その人らしい生活を支援するための地域連携、社会的資源の活用を学ぶための科目として設定した。

科目目標：在宅看護の目的・対象・場を知り、保健・医療・福祉との関連、地域連携をふまえた看護の機能と役割を理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	方法
1. 在宅看護とは	1. 在宅看護の目的と特徴について理解できる。	1. 在宅看護のめざすもの 2. 在宅看護における看護師の役割と機能 1) 高齢化社会の進展と地域連携 2) 医療ニーズに応じた継続的な医療の提供と看護師の役割 3) 在宅看護における看護師の倫理	6	講義
2. 在宅看護の対象	1. 在宅療養者と支援者について理解する。	1. 在宅看護の対象者の特徴 1) 年齢からみた対象者の特徴 2) 疾患・障害からみた対象者の特徴 3) 訪問看護制度からみた対象者 2. 家族・家族アセスメント	6	講義
3. 対象者の権利保障	1. 対象者の権利保障について理解する。	1. 個人の尊厳と自己決定権 2. 個人情報保護と情報開示 3. 成年後見 4. 虐待	6	講義
4. 在宅看護の制度	1. 在宅看護の制度が理解できる。	1. 在宅看護のしくみ 1) 訪問看護の創設と発展経緯 2) 介護保険制度 3) 訪問看護制度 2. 世界の訪問看護の動向	6	講義
5. 地域ケア体制の充実に向けた看護の機能	1. 地域連携における看護の機能が理解できる。	1. 在宅における連携の特徴 2. 医師との連携 3. 介護保険の社会資源との連携 4. その他の社会資源との連携 5. ネットワークづくり 6. 入退院時における医療機関と訪問看護の連携 ☆演習 居住している地域で実施されている制度、地域にある施設や事業所を調べる	5	講義 演習
6. 評価			1	
評価方法	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
テキスト	秋山正子：系看統合 在宅看護論（医学書院）			

科目：在宅看護技術論 I

1 単位（15 時間）

設定理由：在宅看護者と家族の在宅療養を支援していくために必要な在宅看護の展開方法を理解するための科目として設定した。

科目目標：在宅療養者とその家族に必要な看護を展開する方法を理解する。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	方法
1. 在宅における計画的な看護の展開	1. 在宅看護を展開する方法について理解する	1. 在宅看護の展開のポイント 1) アセスメントと評価の技術 2. 在宅看護の展開 1) 在宅看護の展開の特徴 2) 情報収集とアセスメント 3) 実施と評価 3. 在宅での療養生活を継続させるための条件・整備 1) 生活の場を整える 2) 介護の人的資源 3) 在宅療養支援システム 4) 福祉機器と介護用品 ☆施設見学 「福祉機器」展示ホールへ	8	講義
2. 在宅看護における安全性の確保	1. 在宅看護における安全性の確保について理解できる	1. 感染防止 2. 医療事故防止 3. 災害時の在宅看護	6	講義
3. 評価			1	
評価方法	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
テキスト	秋山正子：系看統合 在宅看護論 （医学書院）			

設定理由:在宅での生活に必要な看護を理解するとともに、在宅での援助技術を学ぶための科目として設定した。

科目目標：在宅看護の実践に必要な看護技術、態度を身につける。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	方法
1. 在宅看護の基礎技術	1. 基本的な生活行動を援助する技術を身につける。	1. 基本的な生活行動援助 1) 清潔の援助 2) 衣生活の援助 3) 食生活・嚥下の援助 4) 排泄の援助 5) 移動と活動の援助 ☆演習 入浴、洗髪、移動、食事 排泄介助	1 5	講義 VTR 演習
2. 医療処置に伴う生活行動支援	1. 在宅看護で行なわれる医療処置の種類とそれに伴う援助について理解する。	1. 在宅で行う主な看護処置と療養者及び介護者への指導 1) 褥瘡のケア 2) 尿道留置カテーテル 3) ストーマ 4) 経管栄養とPEG 5) 在宅酸素療法 6) 在宅人工呼吸療法と排たん法 7) 在宅輸液療法（輸液宅配・皮下うめこみ） 8) 非侵襲的陽圧換気療法	1 4	講義 VTR
3. 評価			1	
評価方法	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
テキスト	秋山正子：系看統合 在宅看護論（医学書院）			

科目：在宅健康支援論

1単位（30時間）

設定理由：特定の健康問題をもつ対象の状況を把握し、その対象の看護に必要な知識を学ぶための科目として設定した。

科目目標：在宅療養者の状況を把握し、その対象に必要な看護を理解する。

単元	単元目標	教授内容	時間	方法
1. 在宅療養を必要とする対象の看護	1. 在宅療養者の主な障害と看護について理解する。	1. 在宅看護介入時期の特徴 2. 対象となるおもな障害と看護 1) 脳血管障害(脳卒中)の後遺症をもつ療養者の看護 ※自己学習 身体障害者福祉法 2) 難病をもつ療養者の看護 ※自己学習 難病に関わる法律や制度 3) 呼吸障害(慢性呼吸不全)をもつ療養者の看護 4) 認知症のある療養者の看護 ※自己学習 成年後見制度 5) 精神に障害のある療養者の看護 ※自己学習 精神保健福祉法 6) 小児の療養者の看護	15	講義 演習
2. 終末期の看護	1. 在宅で最後を迎える人の看護について理解する	1. 在宅における終末期ケア 1) 在宅における終末期ケアの条件 2) 在宅におけるケアの展開 3) 在宅における終末期ケアの対象 4) 家族への支援 5) 疼痛管理	4 10	講義
3. 評価			1	
評価方法	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
テキスト	秋山正子：系看統合 在宅看護論 (医学書院)			

設定理由：今日の医療・看護の仕組みを理解し、医療チームの一員として看護サービスが実践できる能力を身につけ、災害看護、国際看護について学ぶ科目として設定した。

科目目標：医療・看護の仕組みを理解する。災害及び災害看護に関する基礎的知識を理解し災害が人々の生命や生活に及ぼす影響を理解する。世界における看護の状況を理解する。

単元	単元目標	教授内容	時間	方法
1. 病院の概念と組織、看護体制	1. 病院の概念と組織、看護体制について理解する。	1. 病院の概念と組織、看護体制 1) 医療保険制度と診療報酬制度 2) 看護サービスと診療保険制度 3) 病院の組織と看護部の組織 4) 看護体制と課題	4	講義
2. 看護管理	1. 看護管理について理解する。	1. 患者管理、看護業務、看護の評価について 1) 患者管理 2) 看護業務 3) 看護の評価	2	講義
2. 地域の医療活動	1. 地域の医療活動を知る。	1. 地域医療・看護の提供と看護の役割と課題	2	講義
3. 理想的な病院・看護部組織	1. 理想的な病院・看護部組織をつくる。	1. 理想的な病院・看護部組織	5	演習
4. 災害と災害看護	1. 災害と災害看護について理解する。	1. 災害看護 1) 災害看護の特徴 2) 災害看護の対象 3) 被災者の特性 4) 在宅療養者と家族の災害体験 5) 防災・災害援助活動のシステム 6) 災害サイクルとは何か 7) 集団災害医療とトリアージ	12	講義 演習
5. 先進国、発展途上国の健康問題	1. 先進国、発展途上国の健康問題について理解する。	1. 先進国、発展途上国の健康問題 1) 世界の健康問題の現状 2) 異文化における健康観と保健行動 3) 青年海外協力隊	4	講義 VTR 演習
7. 評価			1	
評価方法	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
テキスト	上泉和子：系看統合 看護管理 （医学書院） 日本赤十字社 事業局看護部：災害看護学・国際看護学 （医学書院）			

設定理由：看護における医療安全の考え方や行動を養うための科目として設定した。

科目目標：自分の今までの体験をもとに医療安全について考えることができる。

メタ認知について理解し、自分のうちに医療事故を起こす可能性があることに気づき、当事者意識を持つことができる。医療安全システムについて考えることができる。医療安全における看護者の責務を述べることができる。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	方法
1. 医療安全	1. 医療安全について考えることができる。	1. 医療・看護における安全の重要性 1) あなたの考える医療安全 2) 安全管理と事故防止の重要性 3) 医療事故・医療過誤の原因と対策 4) 医療安全システム	10	講義 演習
	2. リスクマネジメント及びヒューマンエラーの概念を理解する	2. リスクマネジメントとは 1) ヒューマンエラーの概念 2) エラーに関係する人間の特性	10	講義 演習
	3. 事故予防のメタ認知力について理解する。	3. 事故予防のメタ認知と自己モニタリング機能・自己コントロール機能	2	講義
	4. 事故の要因分析ができる。	4. 事件事例の要因分析（転倒転落） P-mSHELL モデルを使用して、事故の要因分析	2	講義 演習
2. 看護場面でのヒヤリハット事例検討	1. 看護場面で起こりやすいヒヤリハット事例を検討することができる。	1. 看護学生に起こりやすいヒヤリハット事例検討	5	講義 演習
3. 評価			1	
評価方法	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
テキスト	川村 治子：系看統合 医療安全 (医学書院) 川村 治子：医療安全ワークブック (医学書院)			

設定理由:看護における事故やリスクの感性を高める医療安全の考え方や行動を養うための科目として設定した。

科目目標：看護における医療安全の考え方を理解し、医療安全に伴う行動がわかる。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時間	
1. 患者に投与する業務における事故防止	1. 患者に投与する業務における事故防止について理解する。	1. 患者に投与する業務における事故防止 1) 業務特性からみた患者に投与する業務の事故防止 2) 注射業務と事故防止 3) 注射業務に用いる機器での事故防止 4) 輸血業務と事故防止 5) 内服業務と事故防止 6) 経管栄養業務と事故防止	10	講義 演習
2. 危険な持続的医療行為の観察・管理における事故防止	1. 危険な持続的医療行為の観察・管理における事故防止について理解する。	1. 危険な持続的医療行為の観察・管理における事故防止 1) チューブ管理と事故防止 ☆演習：チューブ管理と事故防止	4	講義 演習
3. 療養上の世話における事故防止	1. 療養上の世話における事故防止について理解する。	1. 療養上の世話における事故防止 1) 療養上の世話における事故のとらえかたと防止 2) 転倒・転落事故防止 3) 誤嚥事故防止 ☆演習：転倒・転落事故防止	4	講義 演習
4. 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因	1. 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因について理解する。	1. 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因	4	講義 演習
5. リスク感性	1. 危険予知のリスク感性について理解できる	1. KYT トレーニング	7	講義 演習
6. 評価			1	
評価方法	試験で評価する 方法は担当講師に一任する			
テキスト	川村 治子：系看統合 医療安全 (医学書院) 川村 治子：医療安全ワークブック (医学書院)			

設定理由：より臨床に近い形での学習を通して知識・技術を統合する科目として設定した。

科目目標：患者の状態に応じた看護技術が実施できる。

複数の看護技術を組み合わせ、時間経過の中で複数の患者に対して優先順位をつけて適切に実施できる。

単 元	単 元 目 標	教 授 内 容	時 間	方 法
1. 患者の状態に応じた看護技術の習得	1. 患者の状態に応じた看護技術が実施できる	1. 患者の状態に応じた看護技術の習得	7	講義 演習
2. 複数患者のケアの優先度を踏まえた計画立案	1. 複数患者のケアの優先度を踏まえた計画立案ができる	1. 2人の患者のケア計画立案	6	講義 演習
3. 複数患者の看護実践	1. 複数患者の看護実践ができる	1. 計画立案の実施 1) 複数の患者の看護実践 2) 割り込み状況への対処 ① 予期しない患者の反応 ② 突発的な事態 ③ 時間の切迫	10	講義 演習
	1. 複数患者の看護実践の評価ができる	1. 評価 1) 計画の妥当性 2) 割り込み状況への対処	6	講義 演習
4. 看護技術の総合評価	1. 看護技術の総合評価	1. 看護技術の総合評価	1	実技テスト
評価方法	試験（実技試験）で評価する 方法は担当講師に一任する			
テキスト	講師資料			